

(別紙)

ひょう害に対する農作物管理について

令和元年8月8日
佐久農業改良普及センター

1 果樹

(1) りんご

- ア 被害が大きく、葉や樹体損傷が著しい場合は、被害程度に応じて、着果量を調整する。すぐに摘果せず、数日経過してから、腐敗につながる損傷の大きい果実を中心に、摘果を行う。
- イ 被害の軽い園地では、被害果をむやみに摘果せず、様子を見る。ただし今後、裂傷がある果実は腐敗する場合があるので、腐敗した果実は摘果する。
- ウ 樹体保護、病害発生防止のための防除を実施する。
 - ① 被害の多少にかかわらず早急に防除する。原則として定期防除を早める対応でよい。ただし、定期防除直後に降ひょうがあった場合は、殺菌剤の特別散布を実施する。
 - ② 収穫期が近い品種は、農薬使用基準の収穫前日数などに十分注意する。
 - ③ 樹体保護のため、枝幹部までかかるように散布する。
- エ 収穫に際しては、被害程度に応じて加工・生食の仕分けを行い、ひょう害特別規格等の品質が保たれるよう留意する。
- オ 樹勢回復のための施肥は行わない。
- カ 枝が折損した場合は、のこぎりで切除し、切り口に塗布剤を塗布する。

(2) ぶどう及びワインぶどう

- ア 葉や新梢の保護、病害発生防止のための防除を実施する。
 - ① 被害の多少にかかわらず早急に防除する。原則として定期防除を早める対応でよい。ただし、定期防除直後に降ひょうがあった場合は、特別散布を実施する。
 - ② 農薬使用基準の収穫前日数などに十分注意する。
- イ ワインぶどうでは、すみやかに房の被害状況を確認して、裂果した粒は取り除く。以降も腐敗粒の発生には注意をし、被害粒を取り除くとともに防除を実施する。
- ウ 葉の脱落が多い場合は、以降の展開葉をできるだけ残すよう努める。
- エ 通常のぶどうでは、果実の打撲による変色や損傷、裂傷の状況は、数日経過した後に判明してくる。あわてて摘粒摘房などを行わず、数日してから次のように対応する。
 - ・ 打撲、裂傷部分から、腐敗・裂果が生じている場合は、房全体に腐敗が及ぶ恐れがあるので、被害果粒を摘粒する。以後も定期的に確認する。
- オ 摘粒に合わせて、葉の損傷程度に応じ摘房を行う。なお、葉の脱落が多い場合は、以降の展開葉を残すよう努める。
- カ 樹体回復のための施肥は行わない。

(3) ももなど核果類

- ア 樹体保護、病害発生防止のための防除を実施する。
 - ① 被害の多少にかかわらず早急に防除する。原則として定期防除を早める対応でよい。ただし、定期防除直後に降ひょうがあった場合は、特別散布を実施する。
 - ② 収穫期が近い品種は、農薬使用基準の収穫前日数などに十分注意する。
 - ③ 樹体保護のため、枝幹部までかかるように散布する。
- イ 被害が大きく、葉や樹体損傷が著しい場合は、被害程度に応じて、着果量を調整する。腐敗果が見られた場合には摘除し、樹から離れた場所で、まとめて土中に埋める。
- ウ ももは、被害が軽くても成熟に伴い腐敗する場合がある。腐敗につながる裂傷がある果実はただちに摘果する。
 - 有袋栽培では、除袋時に傷の程度を確認するとともに、腐敗果が見られた場合には摘除

- し、樹から離れた場所で、まとめて土中に埋める。
- エ 突風で落果したり、摘果した果実は、穴を掘り埋めるなど適切に処理する。
- オ 収穫時には、果実の被害程度を見極めて生食用と加工用に分ける。また、被害果は成熟が早まる場合があるので、過熟に注意する。
- カ 樹勢回復のための施肥は行わない。
- キ 枝が折損した場合は、のこぎりで切除し、切り口に塗布剤を塗布する。

2 野菜

(1) 葉洋菜（レタス、はくさい、キャベツ、ブロッコリー）

- ア 収穫期に近いものは、被害状況により出荷団体と相談の上、出荷の可否を判断し対応する。
- イ 腐敗性病害対策として、生育ステージに応じて銅剤、抗生物質剤、オキシリニック酸剤及びそれらの混合剤などを速やかに散布する。農薬使用時には、適用作物、使用時期（収穫前日数）、使用回数などの使用基準を十分確認する。薬害軽減のため銅水和剤に炭酸カルシウム水和剤を加用する場合、収穫間際には汚れを生じるので、留意する。
- ウ 外葉の被害程度によっては、生育遅延や小玉結球、下位等級となるので、葉面散布等で生育を促す。
- エ 定植直後のものは、被害の程度によって予備苗があれば植え直しを行う。被害の軽いものは、イに準じて薬剤散布を行う。

(2) ジュース用トマト

- 病害の発生を防ぐため、殺菌剤を散布するが、JAなど出荷団体と相談の上、薬剤選定を行う。

(3) スイートコーン

- ア 収穫期のものは、被害状況により出荷団体と相談の上、出荷の可否を判断し対応する。
- イ 茎葉の損傷が軽いものは、そのまま草勢の回復を待つ。

(4) ねぎ

- 病害予防のための薬剤散布を実施し、草勢の回復を図る。

(5) ブッキーニ等

- ア 損傷の大きい葉は除去し、病害の発生を防ぐため、殺菌剤散布を行う。
- イ 損傷を受けた果実は摘果し、草勢が回復するよう適期収穫に努める。